2021.11.8

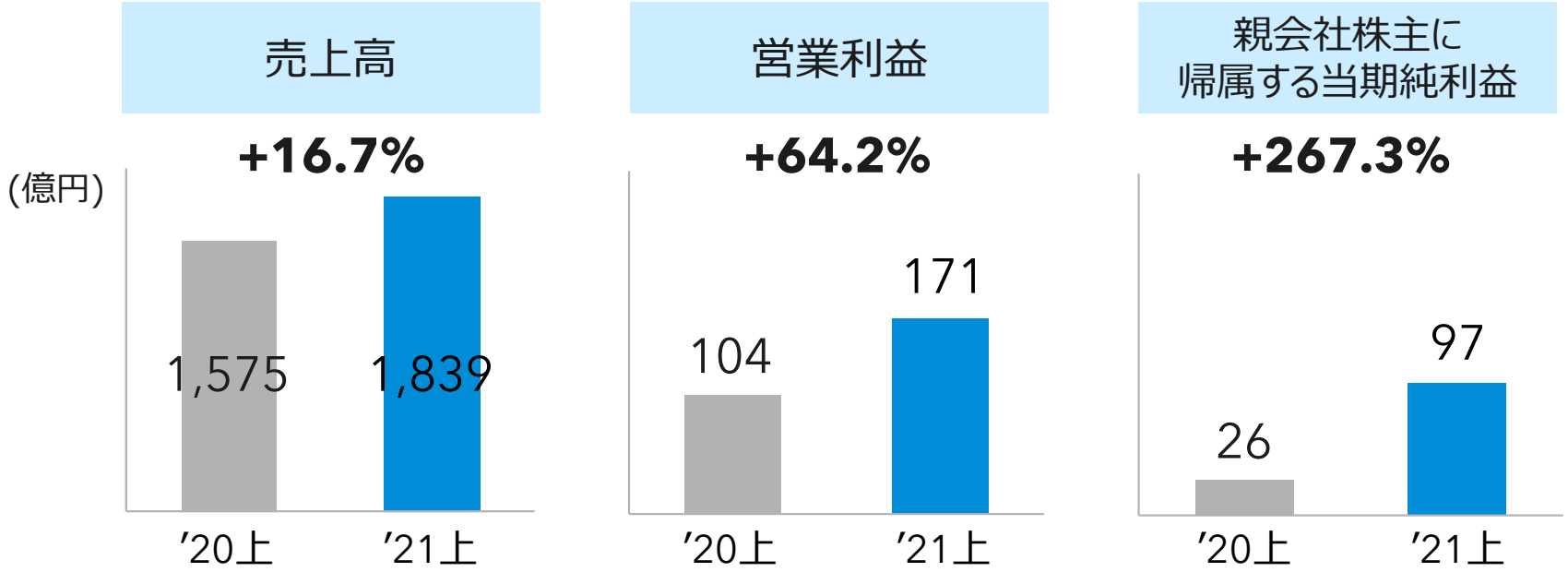
2021年度
第2四半期決算説明

東洋紡株式会社

決算のポイント

上期実績

原燃料価格高騰の影響あるも、工業用フィルム、PCR検査試薬が堅調に推移し、増収増益。 営業利益 171 億円（1.6倍）、当期純利益 97 億円（3.7倍）



2022年3月期通期予想

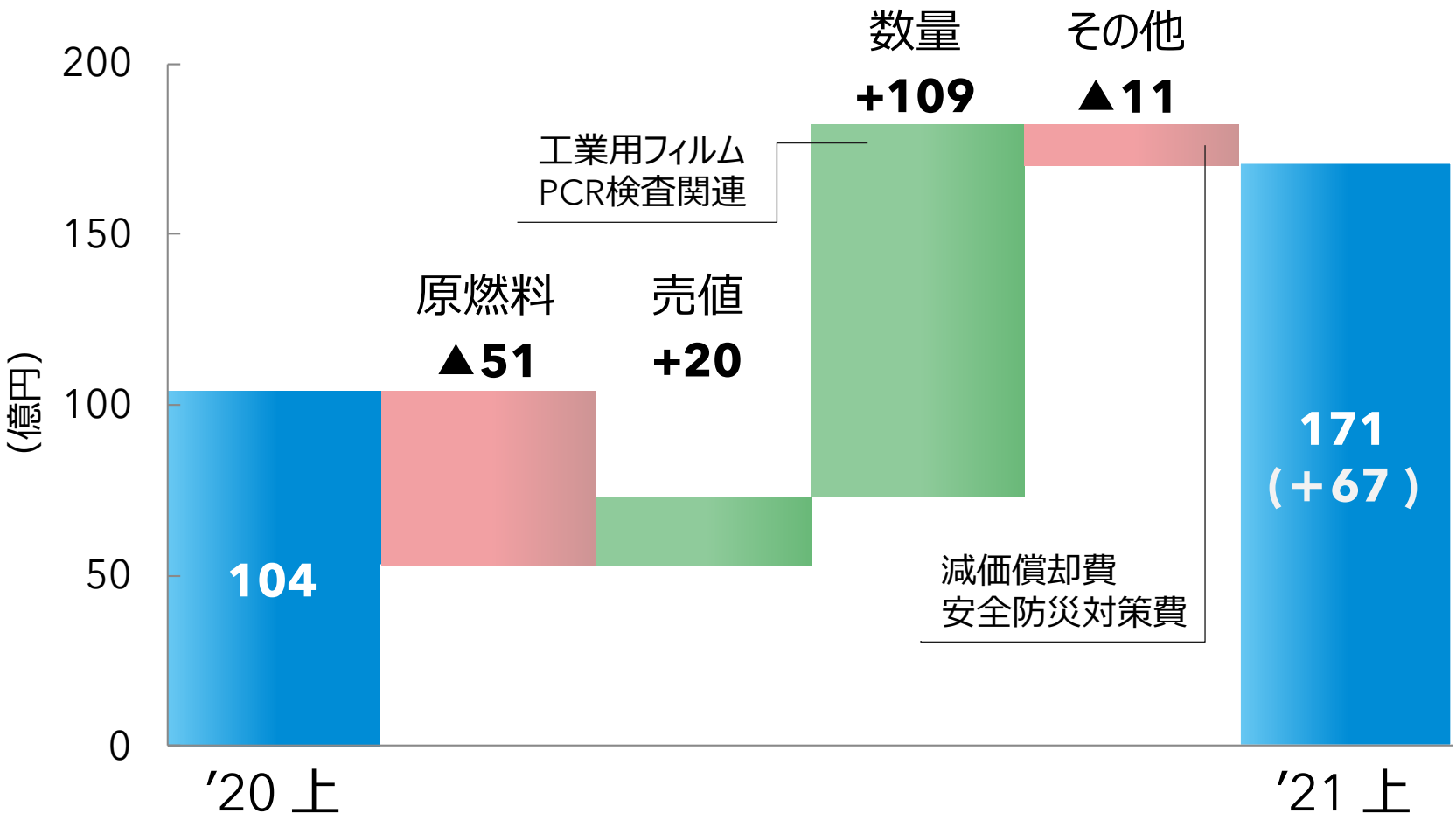
工業用フィルムは堅調に推移するも、原燃料価格高騰、自動車減産の影響が懸念されることから、営業利益 290 億円、当期利益 130 億円の予想を据え置く

決算サマリー｜PL

(億円)

	20年度		21年度	増減	
	上期	下期	上期	金額	率
売上高	1,575	1,799	**1,839**	+264	+16.7%
営業利益	104	162	**171**	+67	+64.2%
（率）	6.6%	9.0%	**9.3%**	-	-
経常利益	59	148	**133**	+74	+127.0%
特別損益	▲ 19	▲ 132	**▲ 18**	+1	-
親会社株主に帰属する当期純利益	26	16	**97**	+71	+267.3%
EBITDA* ＊営業利益＋減価償却費（のれんを含む）	195	262	**271**	+76	+38.7%
EPS（円）	29.7	17.6	**109.2**	-	-
ROE* ＊21年度上期は年換算ベース。(当期純利益×2)÷期首・期末平均自己資本	2.3%		**10.2%**	-	-
営業CF	134	216	**118**	▲ 16	-
減価償却費	91	100	**100**	+9	+9.7%
設備投資	118	114	**138**	+20	+16.5%

営業利益の増減要因



	20年度 上期	21年度 上期	直近予想 (21/08)
為替レート（円/US＄）	107	110	110
国産ナフサ（千円/kl）	28	51	51

決算サマリー｜BS

(億円)

	20/3末	21/3末 (B)	21/9末 (A)	増減 (A)-(B)
総資産	4,889	4,912	**5,037**	+125
現預金	252	347	**263**	▲ 84
棚卸資産	806	763	**868**	+105
有形固定資産	2,315	2,246	**2,282**	+36
純資産	1,826	1,886	**1,986**	+100
自己資本	1,779	1,857	**1,958**	+101
うち利益剰余金	619	644	**704**	+61
非支配株主持分	47	29	**28**	▲ 1
有利子負債	1,751	1,870	**1,855**	▲ 15
D/E レシオ	0.98	1.01	**0.95**	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.8	3.3	**2.9**	-

* (有利子負債 - 現預金)<期末>／EBITDA<年換算>

決算サマリー｜セグメント別

(億円)

	売上高		営業利益		
	20年度 上期	21年度 上期	20年度 上期	21年度 上期	増 減
フィルム・機能マテリアル	738	**859**	87	**122**	+35
モビリティ	150	**216**	▲ 13	**▲ 9**	+4
生活・環境	502	**547**	18	**19**	+1
ライフサイエンス	124	**163**	16	**46**	+30
不動産・その他	62	**53**	10	**11**	+0
消去・全社	-	**-**	▲ 14	**▲ 18**	▲ 4
合計	1,575	**1,839**	104	**171**	+67

フィルム・機能マテリアル

(億円)

	20年度			21年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	363	375	738	457	402	859	+121	+16.5%
営業利益	39	48	87	68	54	122	+35	+40.4%
（率）	10.8%	12.8%	11.8%	14.9%	13.5%	14.2%	-	-

包装用フィルム

■環境配慮製品の需要堅調も、原料価格高騰の影響受ける

工業用フィルム

■液晶偏光子保護フィルムは、新ライン（３号機）の稼働により増収

■セラコン用離型フィルムは、新ライン（加工設備）の稼働により増収

機能マテリアル

■工業用接着剤“バイロン”は、エレクトロニクス用途の販売が堅調に推移

トピックス｜フィルム事業

セラコン用離型フィルム

・年率7%以上の成長市場
・強み：原反から加工までハイエンド品を一貫して製造できる世界唯一のメーカー
・2020年度シェア25%、2025年までにシェア35%をめざす

➢ 加工設備の増設

・設備投資額 60億円
・2020年6月 1号機本格稼働
・2022年度1Q 2号機稼働

➢ 製造設備の新設

・設備投資額 200億円
・2022年夏 着工
2024年秋 稼働開始
・生産能力 2万ﾄﾝ/年
・旧TFSのインラインコート技術 × 東洋紡の製膜技術

二軸延伸ポリプロピレンフィルム

・環境に配慮した、食品包装用フィルム
・防曇、高剛性など、高性能フィルム

➢ 生産設備の刷新

・設備投資額 約70億円
・2022年度1Q 稼働開始
・生産能力 2万ﾄﾝ/年

モビリティ

（億円）

	20年度			21年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	68	82	150	111	105	216	+65	+43.5%
営業利益	▲ 7	▲ 6	▲ 13	▲ 5	▲ 4	▲ 9	+4	-
（率）	-	-	-	-	-	-	-	-

セグメント全体：国内外の自動車生産の回復に伴い、販売は堅調

エンジニアリングプラスチック

■国内・海外ともに販売が堅調

エアバッグ用基布

■販売は回復するも、原料価格の急騰により、改善遅れる

生活・環境

(億円)

	20年度			21年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	229	273	502	277	270	547	+45	+9.0%
営業利益	3	14	18	15	4	19	+1	+5.7%
(率)	1.5%	5.2%	3.5%	5.4%	1.4%	3.4%	-	-

環境ソリューション

■ＶＯＣ処理装置は、新型コロナウイルス禍で、一時的に受注減少

不織布

■長繊維不織布スパンボンドは、建材・自動車用途が堅調も、原料高の影響あり

繊維機能材

■ポリエステル短繊維は、原料高の影響あり

■スーパー繊維は、“イザナス”は釣糸・ロープ用途、“ツヌーガ”は耐切創手袋の販売堅調

衣料繊維

■中東向け特化生地は回復も、スポーツ用途、ユニフォーム用途は停滞

ライフサイエンス

(億円)

	20年度			21年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	63	60	124	75	89	163	+40	+32.3%
営業利益	10	6	16	19	28	46	+30	+188.8%
(率)	15.7%	10.0%	12.9%	24.9%	31.1%	28.2%	-	-

バイオ

■PCR検査用原料・試薬、遺伝子検査装置などの販売が拡大

メディカル

■人工腎臓用中空糸膜の出荷堅調

医薬

■医薬品製剤製造受託事業は、FDA対応のため、操業度低下

トピックス｜メディカル事業

人工腎臓用中空糸膜

・世界の人工透析患者は、年率7%増加

➢ 一貫生産工場の新設

・中空糸製造から、ダイアライザへの加工・製品化まで一貫生産体制

・ニプロ工場内（秋田県大館市）

・設備投資額　約50億円（中空糸の生産設備）

・2024年7月 稼働開始

ウイルス除去フィルター

・抗体医薬品製造工程での、抗体とウイルスを分離する膜

・抗体医薬品の製造向けで、需要増加

・23年～25年に能力増強予定

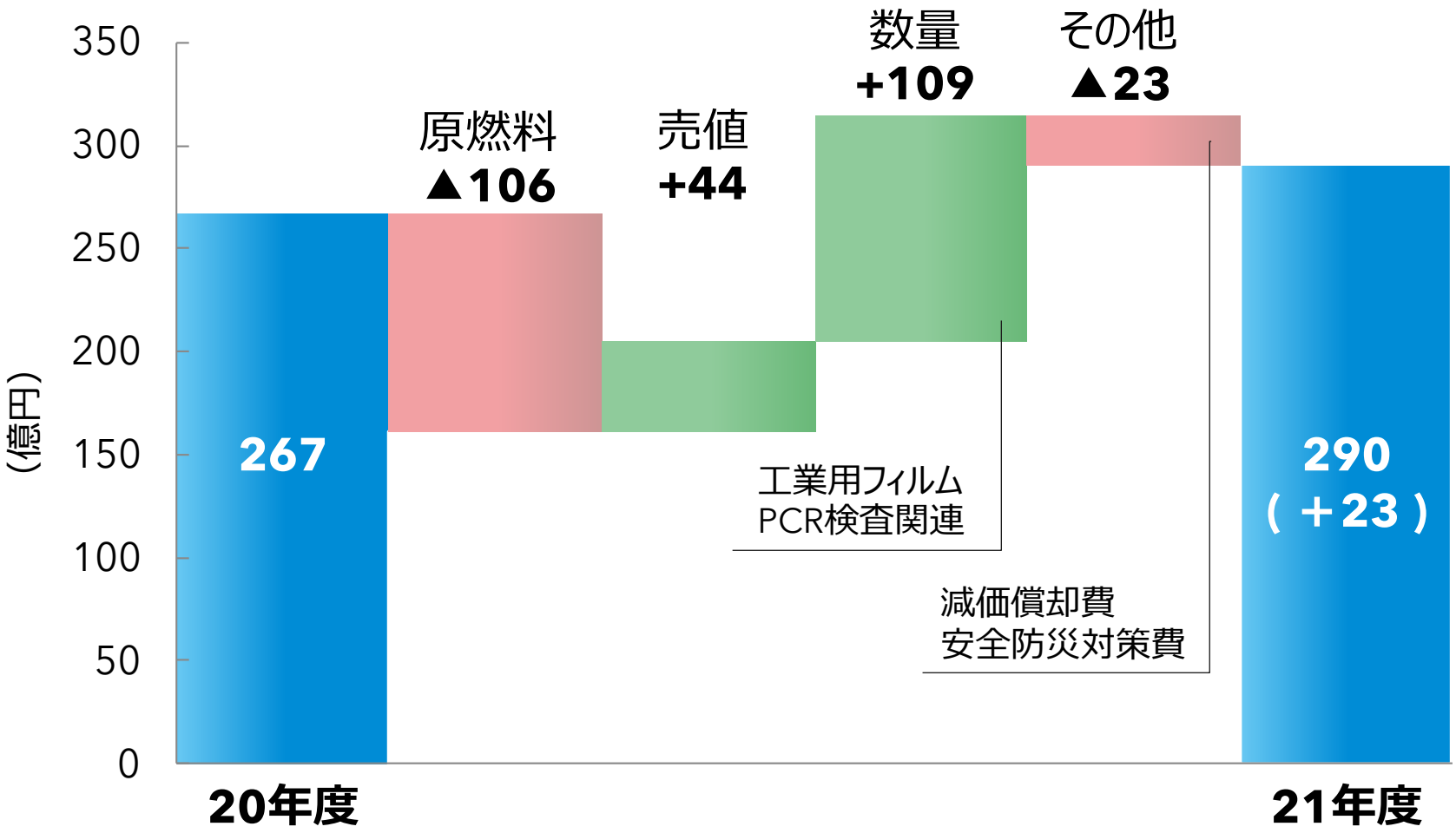
2021年度業績見通し

工業用フィルムは堅調に推移するも、原燃料価格高騰、自動車減産の影響が懸念されることから、営業利益 290 億円、当期利益 130 億円の予想を据え置く

(億円)

	20年度	21年度			増 減	
	実績	上期	下期	見通し	金 額	率
売上高	3,374	1,839	1,811	**3,650**	+276	+8.2%
営業利益	267	171	119	**290**	+23	+8.8%
(率)	7.9%	9.3%	6.6%	**7.9%**	-	-
経常利益	207	133	107	**240**	+33	+15.9%
特別損益	▲ 151	▲ 18	▲ 52	**▲ 70**	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	42	97	33	**130**	+88	+208.5%
EBITDA	458	271	222	**493**	+35	+7.8%
EPS（円）	47.3	109.2	37.1	**146.3**	-	-
減価償却費	191	100	103	**203**	+12	+6.3%
設備投資	233	138	172	**310**	+77	+33.3%
配当（円）	40.0			**40.0**	-	-

営業利益の増減要因



	20年度	21年度	直近予想 (21/08)
為替レート（円/US$）	106	112	110
国産ナフサ（千円/kl）	31	57	52

セグメント別見通し

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想
	20年度 実績	21年度 見通し	20年度 実績	21年度 見通し	増 減	(21/8)
フィルム・機能マテリアル	1,528	**1,700**	200	**210**	+10	203
モビリティ	366	**400**	▲ 16	**▲ 14**	+2	▲ 10
生活・環境	1,091	**1,110**	44	**37**	▲7	52
ライフサイエンス	271	**330**	45	**71**	+26	60
不動産・その他	118	**110**	23	**22**	▲1	23
消去・全社	-	**-**	▲ 30	**▲ 36**	▲6	▲ 38
合計	3,374	**3,650**	267	**290**	+23	290

経営課題

（１）信頼の回復（最優先課題）

① 安全・防災・品質保証の徹底
② リスクマネジメント強化

（２）事業ポートフォリオの組み換え

① 拡大事業への重点投資（フィルム、ライフサイエンス、環境）
② 安定事業の成長余地見極め
③ 改善事業は、改革マスタープラン実行

（３）未来への仕込み

① 有力テーマの事業化加速とみらいテーマ設定
② DX戦略策定と先行事例づくり
③ カーボンニュートラルの工程明確化

（４）土台の再構築

① 人材　② 風土改革・組織開発　③ 事業インフラ

品質不正防止・撲滅に向けた具体的な取組み

TOYOBO

めざす姿：お客さま視点でお客さまに安全・安心を約束するモノづくり

不正のトライアングル:【機会】×【動機】×【正当化】＋【無知】⇒ ４要素への対応

【機会】⇒ 仕組みを変える

◆QA体系遵守(ゲートチェック強化)
◇PL/QAアセスメント見直し
・抜き取り・抜き打ち検査を追加
◆品質データ取り扱いシステム化
◇品質関連組織体制強化
・スリーラインディフェンス
◇リスクが見える仕組みの構築

【動機】⇒ 風土を変える

◆企業理念：「順理則裕」の原点に立ち返る
◆トップ方針：「安全最優先」の浸透・徹底
※【安全】＝【労働】【環境】【製品】【設備】
◇人材ローテーション・業績評価

【正当化】⇒ 意識を変える

◇コンプライアンス教育見直し
・対話・相談できる環境づくり
◆品質保証マニュアル事例レポート
◆PL事故対応訓練・PL/QAセミナー

【無知】⇒ 知識を増やす

◇QA教育プログラムの強化
・新入社員研修
・現場リーダー層教育
・マネジメント層、経営層教育　など
◆ルール・専門知識・法律

（◆：現在進行中、◇：今後の重点取組み）

品質体制再構築ロードマップ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降
重点課題	**信頼回復** 検査によって品質を保証し プロセスで品質を作り込む	→	→	**ゆるぎない信頼** 商品ライフサイクルを意識 した品質保証の考え方定着
緊急対応	外部認証対応			
	アセスメント見直し			
	お客さま対応			
是正対応	品質DXガイドライン	関係会社・海外事業所への水平展開		
		品質DX事例の水平展開　⇒　スマート工場化加速		
標準化	マネジメント体制（有効性検証）：スリーラインディフェンス体制・リスクマネジメント委員会活動			
		着実な品質保証マネジメント運用（ISOをツールとして実ビジネスに積極活用）		
		品質人材マップ運用、専門職制度等での専門家育成と積極活用		
意識改革	企業理念：「順理則裕」の原点に立ち返る／「安全最優先」の浸透・徹底			
	組織風土・意識改革	品質保証は全員活動！の浸透		
	品質保証人材の育成・品質意識の醸成			

補足

セグメント別情報

(億円)

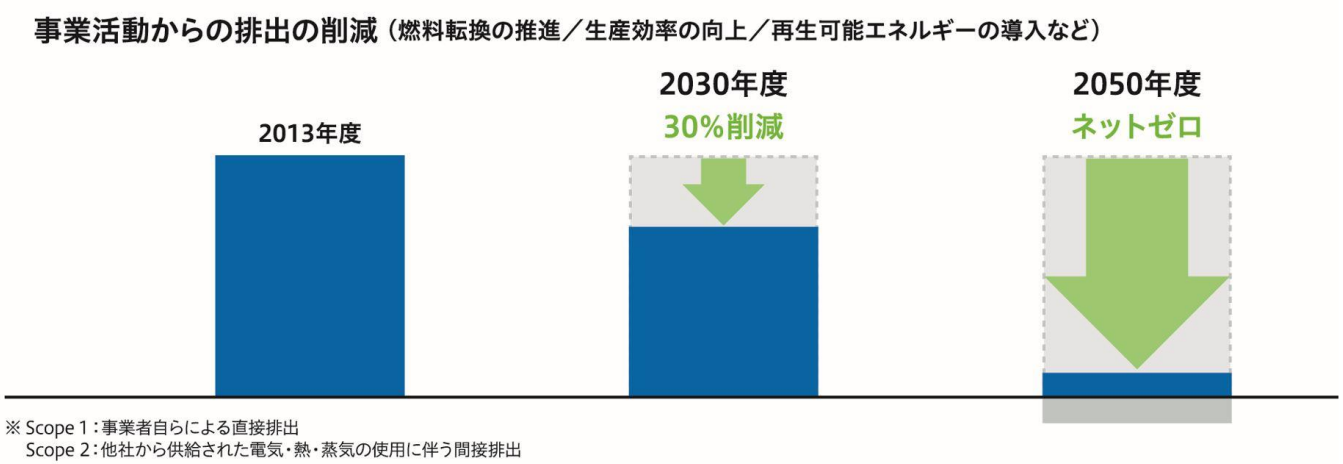
売上高	20年度					21年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム・機能マテリアル	363	375	392	398	1,528	457	402
モビリティ	68	82	105	111	366	111	105
生活・環境	229	273	271	319	1,091	277	270
ライフサイエンス	63	60	69	79	271	75	89
不動産・その他	31	31	27	29	118	26	27
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-
合計	755	821	864	935	3,374	946	892

営業利益	20年度					21年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム・機能マテリアル	39	48	56	57	200	68	54
モビリティ	▲ 7	▲ 6	▲ 4	1	▲ 16	▲ 5	▲ 4
生活・環境	3	14	12	14	44	15	4
ライフサイエンス	10	6	16	14	45	19	28
不動産・その他	5	6	6	7	23	4	7
消去・全社	▲ 7	▲ 7	▲ 8	▲ 8	▲ 30	▲ 8	▲ 10
合計	44	61	79	84	267	92	79

カーボンニュートラル｜目標と施策

2030年目標　Scope1,2：GHG排出量30%以上削減（2013年度比）

2050年目標　Scope1,2：GHG排出量ネットゼロをめざす
GHG削減貢献量＞当社バリューチェーンのGHG排出量



【施策】
- ●燃料転換（低炭素、さらに脱炭素へ）
- ●バリューチェーン全体のGHG排出量削減
  - ・製品の軽量化、原材料の見直し、グリーン物流の推進
- ●GHG削減貢献量の拡大
  - ・海水淡水化膜、浸透圧発電用FO膜、バイオプラスチック、CO_2分離膜
  - ・風力発電向けフィルム、有機薄膜太陽電池用発電材料　など

2013年度比2020年度
GHG排出量削減実績26%
Scope1　：718千t-CO_2
Scope2　：184千t-CO_2

カーボンニュートラル｜取組み状況

取締役会

社長

サステナビリティ委員会

サステナビリティに関する
包括的・総合的なテーマ

各種委員会

分科会
「カーボンニュートラル戦略検討会議」

サステナビリティ委員会の分科会として
統括執行役員会議メンバーで構成

「カーボンニュートラル戦略検討
クロスファンクションチーム」

リーダー：サステナビリティ推進部担当役員
事務局：サステナビリティ推進部
参画部門：関連する事業部
研究開発・イノベーション戦略・技術革新統括など

TCFDシナリオ分析開始

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

カーボンニュートラル戦略策定の三つの視点

① 生産活動に伴う、GHG排出量の最小化

② 提供ソリューションによる、GHG排出量削減・貢献

③ GHGの分離・回収などの技術開発

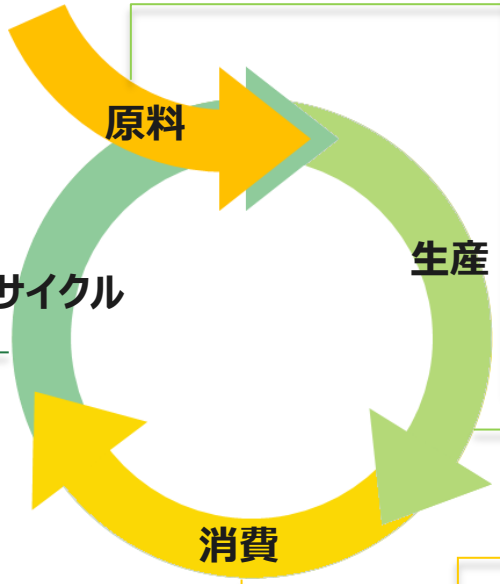
廃棄物ゼロへの実現へ｜サーキュラーエコノミー

TOYOBO

●マテリアルリサイクル
・リサイクル性に優れるポリエステル重合触媒
“TOYOBO GS Catalyst”

●ケミカルリサイクル
・廃プラを粗原料に熱分解する開発技術を支援
（株）アールプラスジャパン

Recycle



●バイオマス
・100%バイオマスの樹脂
PEF
・植物由来の原料を約20%使用
“バイオプラーナ”

●リサイクル樹脂
・PETボトルリサイクル樹脂を80%以上使用したフィルム
“サイクルクリーン”

●モノマテリアル化

“バイオプラーナ“使用

㈱アールプラスジャパン

業界を超えた共同出資会社

包装容器製造、商社、飲料メーカーなど業界を超えた連携

2027年の実用化を目指す

●減容化・薄肉化
・厚みを1/2以下に薄くしたフィルム
“スペースクリーン”（20μm←40μm）
“サイクルクリーン”（12μm←30μm）

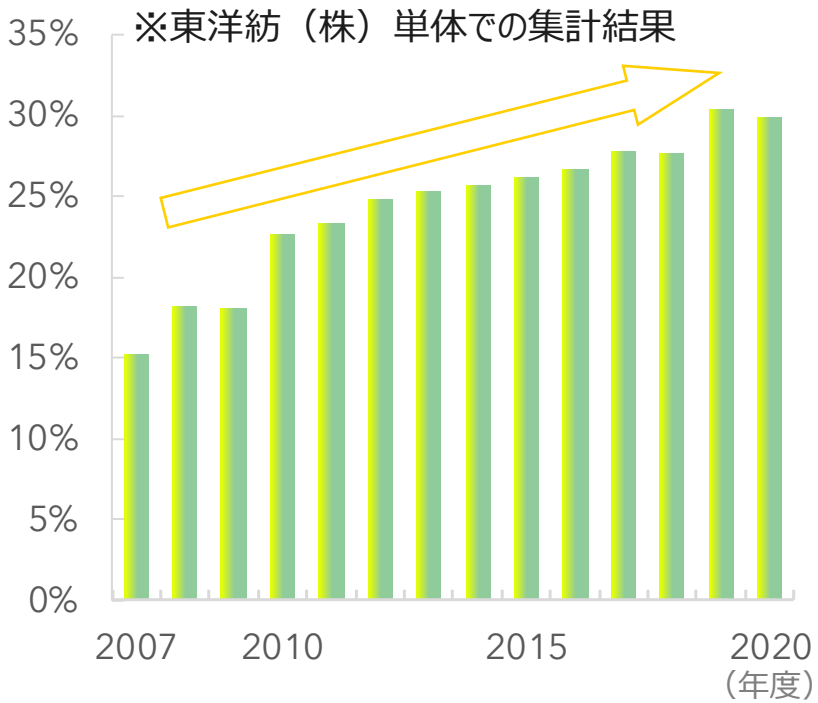
Reduce

環境に配慮した製品｜“エコパートナーシステム”

TOYOBO

・当社独自に環境影響を評価・認定（1998年から実施）
・製品のライフサイクル（原材料～廃棄まで）を6つのステージに分け、各ステージの環境影響を評価
観点：廃棄物削減／温暖化防止／省資源／化学物質削減／その他の環境貢献

“エコパートナーシステム”製品の売上高比率　2020年度30%（590億円）



【目標】　2030年度　40%
2050年度　60%

“エリトロン”
静電気で大気中の粉塵を捕集するフィルター

VOC処理装置
リチウムイオン電池製造過程に
用いられる塩化メチレンを回収する
装置・エレメント　　など

●PENフィルム“テオネックス”
燃料電池セル の封止に用いる シール材。
トヨタの新型燃料電池自動車“MIRAI ”に 採用

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved

All Rights Reserved